

八幡川の史跡(名勝) 八幡川 歴史探訪 ガイドブック

八幡川と史跡(名勝)

千代女の滝 白川・日浦畑のコズミ原の奥にあると言われています。その昔、千代という女性がこの滝壺に身を沈めたことからこの名がついたといわれています。約30mの高さで、二段になって流れ、この滝水で腰を打たすとご利益があると伝えられています。

藤木の滝 白川・藤木谷にあるといわれています。旧街道は、この滝の側を通っていましたが、現在中国自然歩道を歩くと河内峠に向かって八幡川の向う右手の場所になります。約10mの滝で、瀬来町の水内の湯と同じ効果があると伝えられています。

犬戻しの滝 上小深川・野登呂にあるといわれています。黄幡社のある谷を歩き谷川と当たった所にあるそうですが、今は道もなく見ることは難しいでしょう。



1955年(昭和40年)頃の犬戻しの滝

窓ヶ山 この山は、東峰と西峰に分かれており、尾根がV字型に切れ込んでいます。こうした切れ込んだ所を「窓」とも呼ぶことから、窓ヶ山と付けられたとも言われています。



山頂付近のようす

1714年(正徳4年)の上河内村絵図

次郎五郎の滝 阿弥陀山の南から流れ出る八幡川の中流域で、魚切ダムの下流にあります。高さ7m、落ち口の幅は1m余りですが、水量は比較的豊富で、付近一帯は花崗岩でおわれています。



1965年(昭和40年)頃の次郎五郎の滝

八幡川峡 八幡川は北から南に流れていますが、西から東に流れている白川から魚切の間は峡谷となっています。春夏秋冬いろんな野の花を見つけることができます。



八幡川峡
(想像図が旅行をしていたとも書かれています。)

かごの木 言い伝えによると、かごの木は神木だから切れば血が出るというので、恐れられて切らない風習がありました。大木のかごの木の表皮は、仔鹿の文様をしていることから、この名前がついたと言われています。



かごの木

桜並木 上河内地区の吉野橋から上流に、八幡川の土手に桜の大木が数十本植えられています。春には見事な桜の並木となり、鳥のさえずりや川の瀬音を楽しめる場所です。



瀬畔の桜並木

八幡川の史跡(神社・寺院) 八幡川 歴史探訪 ガイドブック

神社

白川神社 1534年(天文3年)のころ勧請されました。当時流行した病の退散のために祀り、以後五穀成就天下平安のための祈願所となりました。1907年(明治40年)の神社合祀以後喜和田にあった小綱の御神体を移し、白川神社としました。毎年白川地区で祭礼を行っています。



白川神社

河内神社 一村一社とする県の方針により、1907年(明治40年)の合祀とともに河内神社と称しました。石花表(鳥居)は、下小深川の立野の新宮神社のものを移したものです。



河内神社(上)と石花表(右)

日吉神社 1907年(明治40年)の合祀以後に元の祭神素戔嗚命(天照大神の弟)の御旅所となりました。神社境内には1855年(安政2年)に氏子中で寄進した大石灯籠があります。下河内地区では祇園祭と称し、毎年7月半ばから8月半ばにかけて、この社に御神体を迎え祭礼を実施しています。



日吉神社(下)と石灯籠(上)

日吉神社鞍掛岩 山頂より神が舞い降りて馬を休ませ、鞍を置いたと言われている大きな岩です。



鞍掛石

寺院

光乗寺 元は禅宗に属していましたが、1601年(慶長6年)に浄土真宗に改宗されました。また、1617年(元和3年)に榎月山光乗寺と改称されました。本尊の阿弥陀如来像は、1766年(天明3年)の作です。1945年(昭和20年)に河内村への集団疎開で、安芸郡(現広島市)矢賀小学校より60名が移り、光乗寺境内に臨時お食事場や便所などが作られました。児童は、本堂に滞在して河内小学校へ通学しました。終戦後に故郷に帰りましたが、当時のことを忘れず、今も光乗寺を訪れる人がいるそうです。



光乗寺

古野薬師堂 広島市の寺町にある仏護寺十二坊の一つで、また現在寺町の善正寺の跡地にあります。十二神将が安置されています。



古野薬師堂

小林地藏 明和年間(1764年~1772年)に水害が発生し、流されて死んだ人の冥福を祈り、土地の人が地藏尊を建立しました。



小林地藏

白川観音堂 下原橋北側の山麓にあり、木像の本尊が安置されています。この木像は、薬師如来が観音菩薩か定かではありません。木像には写真のような額主文の記載があります。



白川観音堂(左)と額主文(右)

寺川観音 本尊は観音菩薩で、長専院の観音堂と言われています。付近の住民によって1938年(昭和13年)に道路改修のため移転改築されました。また由緒のある鯛口が架かっています。



寺川観音(上)と鯛口(右)